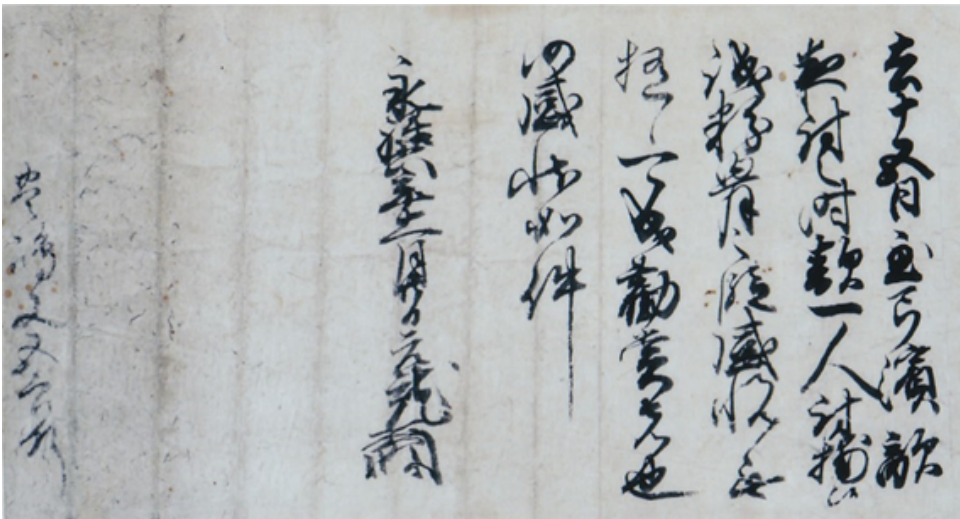


中世

第6章 中世社会の展開 5. 戦国動乱と諸地域 (1) 戦国大名の登場

あまご もうり
尼子氏と毛利氏の戦い —弓浜合戦—



「毛利元就感状」(山口県立山口博物館蔵)★

【意訳】
 去る十五日の弓浜合戦で、夜討ちを仕掛けた時、敵を一人討ち取った戦功は素晴らしく賞賛に値する。よって感状を与えよう。
 永禄六年十一月二十日
 豊島又五郎殿
 元就 (花押)

【読み下し文】
 去る十五日、弓浜に至り、敵夜討ちの時、敵一人討ち取り候、誠粉骨*の段、感悦極まり無く候、勲賞成るべく者なり、よって感状件の如し、
 永禄六年十一月二十日 元就 (花押)
 豊嶋又五郎殿
 *粉骨…力を尽くすこと

解説

■戦国時代の山陰

戦国時代の山陰地域は、出雲国(島根県)の大名尼子氏が勢力を誇っていた。尼子氏は16世紀初頭に伯耆・因幡に攻め入り、山陰全域を支配していた。



尼子経久銅像(安来市)

しかし、中国地方では16世紀半ばに安芸国(広島県)の国人毛利元就が成長し、大内氏を滅ぼして、勢力を広げていく。

1562(永禄5)年、石見銀山を押さえた元就は、尼子氏の拠点である富田城を攻撃する。しかし、尼子氏は手強く、元就は富田城への食糧の補給路を絶って持久戦を展開していく。当時、日本海からの海上ルートは尼子氏の重要な補給路の1つであった。

■尼子氏と毛利氏の戦い

元就は日本海と中海をつなぐ弓浜半島の尼子勢を撃退し、この地を押さえて、海からの補給路を遮断する。



この資料は、そのときに戦功をあげた伯耆武士の豊島又五郎に対して、元就が与えた「感状」と呼ばれるものである。家来たちにとっては、これが恩賞要求の証拠になった。

この戦いで勝利した元就は、戦いを優位に進め、1566(永禄9)年に尼子氏を降伏させ、中国地方の覇者となっていく。(担当:岡村吉彦)

参考資料

- ・ 岡村吉彦『鳥取県史ブックレット4 尼子氏と戦国時代の鳥取』(2010年)
- ・ 鳥取県『新鳥取県史資料編 古代中世1 古文書編 下』714頁(2015年)